

出版クラブの誕生

(2)

江 草 四 郎

日本出版クラブの誕生に至るまでのわが出版界を顧みるに当たって、われわれ業界人は、二つの重要な歴史的事件の悪夢を回想せざるにはいられない。この二つの貴重な経験によって、業界は真に大きく一つにならねばならないことを痛感したのである。第一は、昭和十七年六月十三日の社団法人日本出版文化協会の第二回通常総会における、いわゆる「共立講堂事件」であり、第二は、戦後の昭和二十一年一月二十四日の社団法人日本出版協会の定時総会における戦争責任に関する出版界の自主的粛清の決議に基づき出版界粛清委員会が設置せられたのを発端として、日本自由出版協会が誕生して、業界が真っ二つに分裂した事件である。前者は、当時の陸海軍部当局の出版統制に対する理念の不一致が、一部職員および会員(業者)の協会首脳部への不満を通じて、役員不信任の決議の形を以て、表面化したもので、情報局次長の奥村喜和男氏らが陰で糸をひき、同氏出席の総会は一時混乱に陥り紛糾を極め、業界は二つに割れようとした。

当時、戦局は、六月五日のミッドウェー海戦で、日本は空母四隻を失い、戦局は重大な転機を迎

え、七月には大本営は南太平洋進攻作戦の中止を決定した。七月下旬には新聞統合を実施して一果一紙に整理する方針が決し、同時に八月初旬には、出版界も企業整備の具体化に前進することが決定された。

このようなときに、出版界が二つにわれていることは、重大な問題であるので、九月には日本出版文化協会の専務理事飯島幡司氏が辞任し、十月には情報局次長久富達夫氏が後任に就任、同年の十二月には、国家総動員審議会で、出版事業令(勅令)が可決され、日本出版文化協会が発展的に解消して、日本出版会となり、翌十八年三月十一日に早大隈講堂で創立総会が開催された。

当時の出版事業者は、出版を業とする者(第一種会員)は三、三九五、出版を行なう公益団体(第三種会員)は一、三五六であったが、戦局の重大化に伴い、用紙割当量が激減し、五月には、和紙の配給割当にまで統制が踏み出され、また書籍用外函の廃止も強制されたのであった。更に八月には、出版企画審査制が一段と強化され、企画届と原稿またはゲラ刷を事前に提出して重点特別配給・不急書の発行不承認などが強行せ

られた。そして遂に十一月に至り情報局は、出版事業整備要綱を発表して、日本出版会にその実施を命令し、十二月九日には、書籍出版者全員一、七七八人の中、統合参加資格者を九六六人とし、中核となる世話人を一九五人とした。そして新事業体の規模を用紙年五万ポンド以上の使用実績とした。その結果、翌十九年の三月には、書籍出版部門は一七二社となり、雑誌部門は一五部門合計八三誌を残すことになった。実に惨めなものであった。

かかる時に当って、わが出版界が、もっと強く一体となっていたならば、同じ出版ともいふべき新聞界に比べて、かくまでに悲惨な状態に呻吟することが、いくらかでも軽くあり得たかとも思われた。これらの点に関し、久富達夫氏は、情報局次長の時代にも、また文協の専務理事となり次いで會長に就任せられ、また企業整備を推進するに当っても、終始、わが出版界の将来に深い想いをいせられて、いろいろと配慮し苦心せられたことであつた。しかし、出版界は経営規模も小さく、大と小、大は小なりに相互に群雄割拠して競争にあげられず宿命にあり、政治や社会に対する発言力も今一

つ強くないのは、遺憾の極みである。そのくせ、戦後には「紙の弾丸」の製造者……等といつて、戦争責任を、新聞関係者よりも、広く多く問われる結果となった。どこからみても、出版業界は断じて二つにわれないようにしなければならぬ。それどころか、もっと強く一つにならねばならぬことを考えずにいられない。

しかるに戦後のわが出版界は、たとえアメリカ占領軍政策の過誤多い指導によるものとはいえ、次に述べるが如く、またしても、誤ちをおかした。日本の民主化という美名の下に、一部の者の野望の跳梁を、一時的にせよゆるしたことは、まことに遺憾であり、全出版人は、深く反省しなければならぬ。(有斐閣会長・クラブ副会長)

クラブ催し物のおしらせ

■第9回出版スキーバス 期日／1月23～26日(車中1泊宿2泊5食付) 場所／八方尾根 会費／七千円 定員40名

■第10回出版スキーバス 期日／3月6～9日以下前回と同じ

■第2回出版スキーバス 期日／1月14～15日(研修センター泊) 場所／富士スバルランド 会費／二千二百円(交通費・宿泊料・滑走料等含む) 定員50名

■第3回出版スキーバス 期日／2月10～11日以下前回と同じ

■出版協同共催出版スキーバス 期日／3月20～22日(車中1泊宿1泊) 場所／万座温泉 会費／三千八百円 定員100名

※いずれもお申込みは日本出版クラブ事務局へ(260)五二七三

日本出版クラブ会館

結婚式、披露宴は
新年宴会、諸会合

パーティー式

- I オードヴル、冷肉盛合せ
サンドイッチ…… 500円より
- II オードヴル、冷肉盛合せ
フルーツ、サンド又はのり巻
…… 800円より

会 食

- I オードヴル、魚、肉料理の
盛合せ、パン…… 600円より
- II オードヴル、魚料理、肉料理
フルーツ、コーヒー、パン
…… 1000円より

飲 物

- ビール 180円 日本酒(特) 170円
ジュース、サイダー、コーラ 70円
コーヒー、紅茶 70円
カクテルのご相談もお受けします

生花やおみやげのご注文をお受けします